

動物愛護週間とは？

動物愛護管理法では、動物の愛護と適切な飼育について、理解と関心を深めることを目的に、毎年9月20日から26日までの期間を「動物愛護週間」としています。近年、猫や犬などをペットとして飼う家庭が多くなっています。家族の一員として、飼い主に大切に育てられるペットがいる一方で、ルールやマナーを守らない飼い主に虐待を受けたり、捨てられたりするペットが増えていることも事実です。猫や犬を捨てたり、殺したりすることは、動物愛護管理法によって禁止されており、絶対にはいけません。

この機会に、人と動物が共生できる社会や、飼い主の責任について考えてみませんか。今回は特に、猫を飼おうと思っている人や現在飼っている人、猫のことで困っている人に、対策や心構えなどを紹介します。



市が配布している注意看板



猫 との 接し 方

9/20～9/26 は動物愛護週間です

☎環境課 35-3744

市への相談内容（一例）

相談／犬や猫によるふん尿（汚物）の被害が深刻。

回答／市では「ふんは持ち帰りましょう」といった内容の看板を無料配布しています。また、飼い主が分かる場合は、正しい飼育マナーに関する指導を行い、改善を促します。

相談／飼い主が病気になってしまい、飼育が困難になった。ペットを引き取ってほしい。

回答／市では、犬・猫などを保護していません。まずは家族や友人に相談し、引き取り手を探してください。新たな飼い主が見つからない場合は、市や保健所にご相談ください。

相談／野良猫が自宅の敷地で子どもを生んでしまった。

回答／猫の嫌がる環境を作りましょう。習性上、しばらくすると餌を求めてその場から去ります。その間、むやみな餌やりはしないでください。

【対処法の例】

- 野良猫が敷地内に侵入する穴や隙間をふさぐ
- ホームセンターなどで販売されている、猫用の忌避剤や木酢液などを散布する

野良猫との付き合い方

▶「かわいそうだから」「飼えないけど、餌だけなら」といった理由で、野良猫に餌を与えることはやめましょう。餌を与え続けられれば、野良猫は爆発的に繁殖し、近隣住民に迷惑を掛けてしまいます。「飼い主のいない猫」を増やさないために、以下のことを注意しましょう。

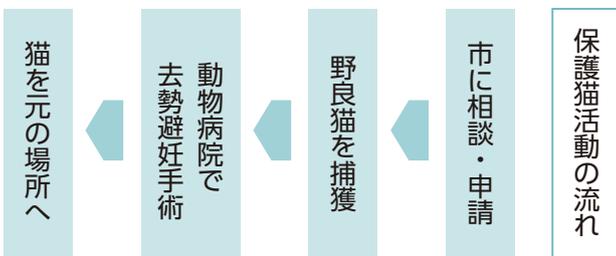
- 餌やりは、飼い主が行うもの。餌を与えれば、飼い主としての責任が伴う
- 野良猫を増やさないために、去勢避妊の手術を行う
- 猫だけでなく野生動物が集まり、餌場と認識される原因となるため、置き餌は厳禁

野良猫を減らす地域猫活動

▶地域猫活動とは、地域住民の協力の下、飼い主のいない猫を捕獲し、動物病院で去勢避妊の手術を行う活動です。猫は手術後、元々いた地域に戻されます。手術をすれば繁殖することはありませんが、餌やりやトイレなどのルールが必要になります。地域で十分に話し合い、ルールを決めましょう。

事前に環境課への相談・申請がある場合は、手術費用を負担します。詳しくは、お問い合わせください。

※市が費用負担できる頭数には、限りがあります。



猫は室内で飼いましょう

▼猫を飼う際は、室内飼いを徹底しましょう。猫を離し飼いにすると、ふん尿や人・物への引っかき傷による近所とのトラブル、感染症や交通事故、猫の迷子など、多くの危険が伴います。

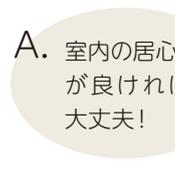
市内では交通事故により、毎年約300匹の猫が死んでいます。

【室内飼いのポイント】

- 去勢避妊手術をする
- トイレのしつけをする
- 室内で立体的な運動ができるようにする



Q. 外出できないと、ストレスになる？



A. 室内の居心地が良ければ、大丈夫！

上り下りできる「キャットタワー」や爪とぎ場を設けることで、運動不足・ストレスが解消されます。猫にとって、居心地の良い環境を作りましょう。

譲りたい人・飼いたい人をつなぎます

▼市役所本庁舎の玄関ロビー前に設置した「動物愛護の伝言板」を通じて、ペットを譲りたい人と飼いたい人をつなげています。

【譲りたい】

申込用紙に必要事項を記入の上、掲示したいペットの写真添えて、市民課または環境課へ提出

【飼いたい】

掲示してあるカードを市役所本庁舎総合案内（1階）へ



島田市動物ボランティア
会長 加藤敏次さん

「猫の飼育に伴う責任を忘れずに」

島田市動物ボランティアは、捨て猫が1匹でも多くいなくなる社会の実現などに向けて、地域猫活動や譲渡会の開催などを行っている非営利団体です。しかし、どんなに猫を保護し、新しい飼い主に譲渡したとしても、保護猫が減る兆しは全くないのが現状。考えもなく、飼い猫の去勢避妊手術をせずに飼うことはやめてください。むやみに野良猫に餌を与えないでください。行き場のない猫を増やさないために、ご理解・ご協力をお願いします。

猫は、人の愛情にしっかり応えてくれる生き物だと思えます。飼い主の皆さんには、最後まで家族の一員として慈しみ、大切に飼っていただきたいと思えます。